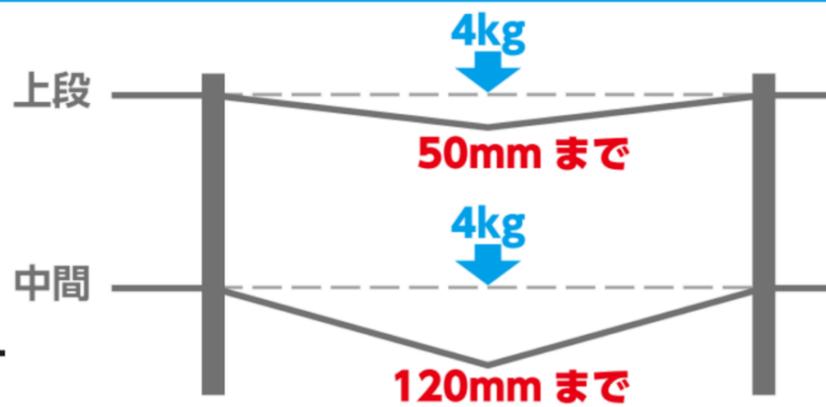


ライフラインの基準

A ライフラインのたわみ OSR 3.14.1 i)

ライフラインのたわみは
4kgの荷重をかけた時に、
上段は50mm、中間は120mmまで

ライフラインの素材はステンレスワイヤー



JSAF推奨のセーフティライン

ビニールでコーティングされたステンレスワイヤー、ダイニーマロープ、コーティングなしのステンレスワイヤーと、大きく分けて3つのライフラインがあります。

ビニールでコーティングされたステンレスワイヤー：このタイプのワイヤーは、新品のときは見た目がよく、手や体毛に優しいのが特長です。

しかし、水や日差しにさらされると茶色く変色してしまうことがあります。

また、安全推進委員としての立場では、ビニールでコーティングされたワイヤーの最大の問題は、ワイヤーのコンディションを確認できないことです。

ステンレスワイヤーには様々なクオリティがあり、ビニールで覆われた安いステンレスワイヤーもよく見かけます。この安いステンレスワイヤーはすぐに錆びますが、ビニールで覆われているので錆びているのか錆びていないのか判断が付きません。

ダイニーマ：最近ではダイニーマロープを設置しているボートもあります。ダイニーマロープはとても軽くて、ステンレスより肌に優しいのが特長です。

しかし、このロープは頻繁に取り替えが必要だということがわかりました。

頻繁に交換をしないと、日差しで強度が落ちることがあるようです。しかしロープを見ても強度が落ちているのかは判断が付きません。

そこでダイニーマロープの場合は毎年交換するのがベストとされています。

コーティングなしのステンレスワイヤー：このワイヤーは一番点検が簡単です。目視で確認してワイヤーのダメージや錆びがすぐにわかります。

1点だけ留意していただきたいのは、多くのワイヤーを燃ったハイクオリティのステンレスワイヤーを選ぶこと。

例えば「1 x 19 316」と呼ばれるものです。19本以外のコーティングなしステンレスワイヤーにすると髪の毛や腕の毛が絡まるので、乗員には喜ばれません！

セーフティラインを点検するときは、各スウェッジポイントと取り付ける支柱に亀裂や錆びがないかも確認してください。

NGケース

ロープ

切れ掛け

繋いである

ビニールコーティング

順次交換を進めたい

数年後はレース参加に際しては禁止にする方針を持っている。